

**イチゴ「ひのしずく」における小型ポットを利用した育苗方法**

イチゴ「ひのしずく」において、小型ポット（9cm 径黒ポリポット）により育苗する場合、6 月 20 日頃までに採苗（鉢受け）し、育苗時の鉢間隔を 15 cm 以上とすることで、定植時にクラウン径 10mm 程度の苗が生産できるとともに、慣行（10.5 cm 径黒ポリポット）と同等の収量を得ることができる。

農業研究センターい業研究所野菜栽培研究室（担当者：白水武仁）

**研究のねらい**

経営面積が大きい本県のイチゴ産地において近年、育苗の省力化を目的とした小型ポット（9 cm 径黒ポリポット）の利用が拡大しているが、「ひのしずく」の育苗は 10.5 cm 径のポット利用が基本であり、小型ポットでの育苗は苗の充実不足により、収量が低いことが指摘されている。

そこで、慣行と同等の収量を確保するため、小型ポット育苗における採苗時期および鉢間隔が苗質および収量に及ぼす影響を検討し、「ひのしずく」の省力・低コストのための安定生産技術を確立する。

**研究の成果**

1. 小型ポット（9cm 径黒ポリポット）を利用して採苗する場合、採苗（鉢受け）は5月中旬から6月20日頃までに行うことで、9月中旬でクラウン径が約10mm程度の苗が確保できるとともに、慣行（10.5 cm 径黒ポリポット育苗）と同等の可販果収量を得ることができる（図1、図2、図3、図4）。
2. 小型ポットを利用する場合、育苗時の鉢間隔は15 cm以上とすることで苗の徒長は抑えられ、9月中旬でクラウン径が約10mm程度の苗が確保できるとともに、慣行と同等の可販果収量を得ることができる（図5、図6）。

**普及上の留意点**

1. 採苗（鉢受け）は5月中旬より開始し、6月20日頃までには終了する。また、健全な小苗が確保できるよう、慣行に準じて親株（360～400株/10a）を確保する。
2. 育苗時の肥培管理は慣行に準じて行い、最終追肥は8月15日とする。
3. 定植後は根鉢が乾燥しやすいため、活着するまでの期間は特に、クラウン付近を乾燥させないよう丁寧に灌水を行う。
4. 育苗には、市販培土（粉碎籾殻、炭、赤土、焼土、バークを配合）を使用した。

【具体的データ】

表1 採苗時期の違いが苗の生育に及ぼす影響(調査日:平成22年9月16日)

試験区	草丈 (cm)	第3葉				クラウン 径 (mm)	生根重 (g)
		葉身長 (cm)	葉幅 (cm)	葉柄長 (cm)	葉色 (SPAD値)		
5月14日	16.8	7.5	5.0	6.7	30.0	10.9	24.2
6月3日	17.1	7.9	4.8	7.7	30.7	11.1	18.8
6月23日	15.7	7.6	4.8	6.7	30.8	10.1	17.4
7月13日	12.2	5.8	3.7	5.5	28.6	8.0	9.3
8月2日	10.4	4.2	3.0	5.3	28.3	6.5	5.8
対照区	18.6	8.2	5.3	8.8	30.5	10.9	24.2

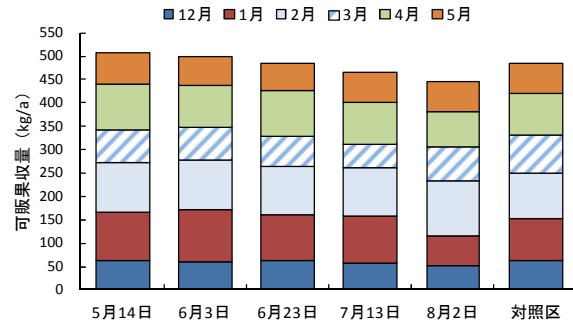


図1 採苗時期の違いが収量に及ぼす影響(H22)

注1) 採苗 20 日後にランナー切り離しを実施

注2) 対照区は 10.5 cm 径ポットを用い、5 月 21 日に採苗、6 月 23 日に切り離しを実施

注3) ランナー切り離し時に置き肥(約 140mgN/ポット)を施用(7 月 13 日区、8 月 2 日区は無施用)

注4) 最終追肥は全区で 8 月 16 日に約 12mgN/ポットを施用

表2 採苗時期の違いが苗の生育に及ぼす影響(調査日:平成23年9月15日)

試験区	草丈 (cm)	第3葉				クラウン 径 (mm)	生根重 (g)
		葉身長 (cm)	葉幅 (cm)	葉柄長 (cm)	葉色 (SPAD値)		
6月5日	19.3	8.9	5.7	8.3	31.6	10.7	17.2
6月15日	19.0	8.9	5.7	8.6	32.5	10.1	16.2
6月25日	19.5	9.2	5.8	8.6	31.8	9.6	15.6
7月5日	13.8	7.1	4.6	6.4	29.4	8.5	10.7
7月15日	11.5	6.2	4.3	5.4	28.4	7.4	7.8
対照区	21.7	9.1	5.8	10.3	31.1	11.0	19.4

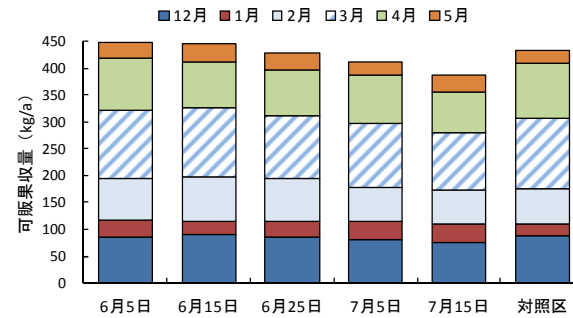


図2 採苗時期の違いが収量に及ぼす影響(H23)

注1) 採取 15 日後にランナー切り離しを実施

注2) 対照区は 10.5 cm 径ポットを用い、6 月 5 日に採苗、6 月 20 日に切り離しを実施

注3) ランナー切り離し時に置き肥(約 140mgN/ポット)を施用(7 月 5 日区、7 月 15 日区は無施用)

注4) 最終追肥は全区で 8 月 15 日に、約 12mgN/ポットを施用

表3 鉢間隔の違いが苗の生育に及ぼす影響(調査日:平成23年9月15日)

試験区	草丈 (cm)	第3葉				クラウン 径 (mm)	生根重 (g)
		葉身長 (cm)	葉幅 (cm)	葉柄長 (cm)	葉色 (SPAD値)		
10cm	28.8	10.8	6.2	17.2	33.3	9.4	8.7
12.5cm	23.5	9.7	6.0	12.8	32.3	10.2	13.6
15cm	19.7	8.7	5.6	9.1	32.3	10.5	16.5
17.5cm	17.8	8.4	5.4	7.4	34.0	10.6	13.2
対照区	21.5	9.2	6.0	10.4	31.8	11.1	18.1

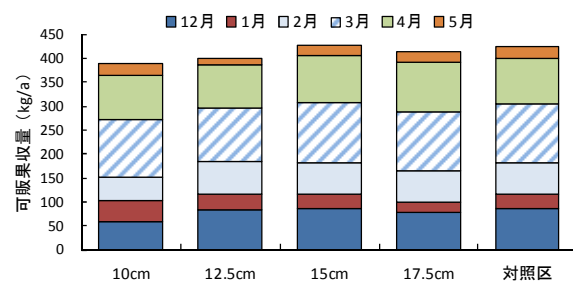


図3 鉢間隔の違いが収量に及ぼす影響(H23)

注1) 5 月 11 日～26 日に採苗し、6 月 30 日にランナー切り離しを実施

注2) 対照区は 10.5 cm 径ポットを用い、鉢間隔は 15 cm で育苗

注3) ランナー切り離し時に置き肥(約 140mgN/ポット)を施用

注4) 最終追肥は全区で 8 月 15 日に、約 12mgN/ポットを施用